

第37回技術研究発表会 梗概 < I 論文 >

B.情報・防災

【HP 掲載No.E02 (B06)】

発表No.	E02
タイトル	大丸有エリアにおける回遊型ウォーカブルの実現に向けた取り組み ～回遊モビリティサービス（低速自動走行モビリティ／モビリティ・ハブ）実証実験～
所属・名前	一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 植村 亮平 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 吉井 礼 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 黒田 和孝 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 阿部 憲太 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 松本 大知 ゲキダンイイノ合同会社 嶋田 悠介 ゲキダンイイノ合同会社 児玉 純平 株式会社三菱地所設計 渡邊 倫樹 株式会社三菱地所設計 神谷 圭祐 株式会社三菱地所設計 呂 軒
キーワード	① ウォーカブル ② 低速モビリティ ③ モビリティ・ハブ
日本経済の中核である大手町・丸の内・有楽町地区（大丸有）では、地権者や行政が連携し、長年にわたり官民協調のまちづくりを推進しています。2019 年度に策定された「スマートシティビジョン・実行計画」に基づき、データ活用のまちづくりを進めています。この取り組みの一環として、「ウォーカブルな空間」の実現を目指し、新しい低速自動走行モビリティを用いたモビリティサービスの実証実験を実施しました。実証で用いたモビリティは、低速走行で歩行者と共存できる点、都市の景観を楽しみながら移動できる点、自由に乗り降りしてまちを回遊できる点に特徴があります。 実証実験では、本モビリティを実際に走行させるだけでなく、回遊の拠点となる「モビリティ・ハブ」を設置し、情報発信や賑わい・滞留機能も一体的に提供することで、その効果を検証しました。	